

車中泊避難所マニュアルの作成

1. 背景

熊本地震より、車中泊避難は注目されるようになる

新型コロナウイルスの影響でさらに車中泊避難を選択する人が増えると考えられる



ただしエコノミークラス症候群などの問題点があり推奨されていない

2. 研究方法

文献・マニュアル調査



マニュアル作成



評価



検証

3. 作成例

2.避難所の運営体制の確立（発災前）

2.1.避難所の開設

車中泊避難所の開設は地域が主体になって行われます。通常の避難所と異なる点は広い駐車スペースを確保する必要があることです。平時から多くの人が利用しているショッピングモールやスポーツセンターなどが望ましいです。

施設の受け入れ態勢として、下記の表1に従った準備が必須です。

表1

項目番号	内容	チェック欄
1	備蓄の確認	
2	トイレの数と位置の確認	
3	手洗い場の数と位置の確認	
4	駐車場のレイアウト作成	
5	受付用書類及び配布資料の作成	

項目番号1は2.2を参照してください。

項目番号2は施設内のトイレの数と位置を確認します。50人に1基、長期化する場合は20人に1基（平成28年4月内閣府防災担当）が目安です。トイレの位置は駐車場との距離を考え、あまり離れすぎない場所が望ましいです。

同施設で体育館などを利用した通常の避難所が開設される場合は、感染予防のため、その避難者と車中泊避難者で利用するトイレを必ず分けてください。その際、各トイレに貼り紙を貼るとより効果的です。状況に応じて仮設トイレの設置を検討してください。

項目番号3は手洗い場の位置と数を確認します。トイレ同様、通常の避難所で避難している人との共有を避ける必要があります。

マニュアルは大きく分けて三つの項目に分けた

1. 目次
2. 発災前の準備
3. 発災後の運営

左の作成例は「発災前の準備」の一例である